

## なぞなぞ

著者	江口 一久
雑誌名	国立民族学博物館調査報告
巻	45
ページ	622-623
発行年	2003-12-26
URL	<a href="http://doi.org/10.15021/00001827">http://doi.org/10.15021/00001827</a>



な  
ぞ  
な  
ぞ

283 レイ・ブーバのなぞなぞ

ちいさなお話、ちいさなお話。

なぞなぞをするとき、わたしたちは、「このことをわかってくれ」という。もしわからなかったら、「ラプトウル。わたしはおまえさんにまけた」という。

(問) 頭をつかれて死んだおばあさん。

(答) ウス。

(問) クスクスーと音をだすおばあさん。カサカサーと音をだすおばあさん。

(答) 箒。

(問) キシキシシーと音をだすおばあさん。

(答) 箒。

(問) 野原でおおきな声をだすマデイ。

(答) オノ。

(問) 草が川をひっぱった。

(答) 草であんだ網で魚をとる人。

(問) わたしはわたしの瑛瑛引きの容器をベッドの頭のほうにほしておく。わたしはそれをすこしもうごかさないので、それはベッドの足のほうにうつる。

(答) 太陽。

(問) ウシがはしつていき、そのあとに膝よりしたをのこした。

(答) モロコシの切り株。

(問) わたしは水をそれにいれる。わたしはそこから砂をとりだす。

(答) カタガユのうえはできているが、したのほうはできていない。ただの粉。

(問) この男は小屋のなかにいる。髭は小屋のそとにある。

(答) (火と) 煙。

(問) この男は野原にいる。この男はまつかだ。

(答) キシメニア・アメリカーナの実。

(問) この男は野原にいるまつくろけの人。

(答) スモモにたくろい実。

(問) わたしは小ヤギをころす。わたしはちいさなナイフをたてかけておく。

(答) ウンコと尻をふくための小枝。

(一九八一年二月一六日、語り手 イーサ・サードウ・サーリ・サイドウ・ムーサ、レイ・ブーバにて。イーサはレイ・ブーバ地方のダーマ族である)

284

ムボロロの人たちのなぞなぞ

- (問) うすい金をつかっていたべる人。
- (答) カミソリ。
- (問) ソウが二頭いるのに、脇腹は一つ。
- (答) ライバル妻たち。
- (問) 鉄がうつと、脂肪がとびちる。
- (答) 腎臓。
- (問) ふかい穴に、くろい鳥。
- (答) 矢筒。
- (問) クユユがクユユを頭にのせた。
- (答) おかずをたく土器とカタガユをつくる土器。
- (問) わたしの人は三人。一人がどこかにいってしまおうと、なにもできない。
- (答) 炬にある三つの石。
- (問) 骨のない、もう子どもをうまなくなった雌ウシ。
- (答) パター。
- (問) 出入り口のない若者の小屋。
- (答) 卵。
- (問) 割れ目だらけのおおきな半截ヒョウタン。老女がそれをぬう。

285

ジャーフィン氏族のなぞなぞ

- (答) 地面に割れ目ができると、雨がふらないとなおらない。
- (一九六四年九月、語り手 ムボロロ氏族、ガウンデレ地方のヤルンパンのちかくにあるババ村にて)
- なぞなぞをかける人は、「ターレ、ターレ」という。
- それにこたえる人は、「ターラーテ」という。
- (問) 「わたしはやってくる。おまえさんは、どうしてわたしをみているのか」
- (答) 「戸口」
- (一九六四年九月、語り手 ジャーフィン氏族の人、ガウンデレ地方、ヤルンパンのちかくのババ村)

